

3. ノニルフェノールの分析法と福岡市における実態調査について

環境科学課 豊福 星洋
中央区衛生課 小原 浩史
保健福祉局食品衛生検査所 平野 真悟
環境科学課 松尾 友香

第 39 回九州衛生環境技術協議会

液液抽出-GC/MS/MS 法により、福岡市内を流れる河川および博多湾の環境基準点 17 地点におけるノニルフェノール (NP) の実態調査を、平成 14 年から平成 24 年にかけて年 2 回ずつ行った。その結果、博多湾では検出されず、河川では複数の地点で検出された。河川で検出された濃度範囲は 0.05~0.44 $\mu\text{g/L}$ であり、環境ホルモンとしての予想無影響濃度および水生生物保全項目の環境基準を超過した地点は無かった。検出回数が多い地点では、上流に下水処理場の放流水が流入する、または下水未整備地域の排水が流入するといったことが影響していると考えられた。

また、NP の新規分析法として固相抽出-GC/MS/MS 法の条件検討を行い、より簡便かつ迅速な分析が可能になった。